

# 農 研 速 報

平成 23 年 1 月 12 日 発行  
茨城県農業総合センター農業研究所  
〒311-4203 茨城県水戸市上国井町 3402  
Tel 029-239-7211 Fax 029-239-7306

作物名 (大豆)

県 名	生育ステージ		生育の状況	問題点	これまでに講じた対策 及び今後の方針
	本 年	平年対比			
茨 城 県 (水戸市)	タチナガハ 11/6 成熟期	18 日遅い	大豆生育期間 (6 月 21 日～11 月 6 日) の気象は、平均気温が平年 (直近 5 ヶ年) より 1.5℃高く、日照時間が平年比 122%、降水量が 101%であった。本年は夏期が高温・乾燥で推移し、梅雨明け後 2 ヶ月間 (7 月 18 日～9 月 17 日) の平均気温が平年より 2.6℃高く、日照時間が平年比 148%、降水量が 49%であった (水戸地方気象台観測値)。 開花期は、タチナガハが平年より 3 日早く、納豆小粒が平年より 1 日遅かった。成熟期は、タチナガハが平年より 18 日遅く、納豆小粒が平年より 14 日遅かった。これは、青立ちの発生によるためと考えられた。 生育は、タチナガハで分枝数と莢数が平年より 6%多くなったが、主茎長、主茎節数、茎の太さが平年を下回り、粗子実重が平年比 94%とやや低かった。納豆小粒は、分枝数が平年より少なく、百粒重も 10%軽かったものの、莢数が平年よりやや多く、粗子実重が平年比 97%であった。 病害は、薬剤による適期防除を実施したことにより、紫斑粒等の発生はほとんどなかった。本年度は、夏期の高温、乾燥等により青立ちが多く発生し、ハスモンヨトウの大発生による葉の食害も多かった。	高温、乾燥等による青立ちの発生が多く見られた。	・紫斑病及び害虫の防除を計 6 回実施した。
	納豆小粒 11/5 成熟期	14 日遅い			

表 生育及び収量 (成熟期調査)

品種	開花期			成熟期			主茎長			主茎節数			分枝数		
	本年 (月日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (月日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	7月30日	△2 (8月1日)	△3 (8月2日)	11月6日	23 (10月14日)	18 (10月19日)	51	86 (59)	86 (59)	12.5	91 (13.7)	91 (13.7)	4.6	98 (4.7)	106 (4.4)
納豆小粒	8月10日	1 (8月9日)	1 (8月9日)	11月5日	19 (10月17日)	14 (10月22日)	73	96 (77)	98 (75)	17.3	104 (16.7)	104 (16.7)	5.3	82 (6.5)	83 (6.4)

  

品種	茎の太さ			全重			結実莢数			粗子実重			百粒重		
	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (英/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	8.3	97 (8.6)	95 (8.7)	47.0	68 (68.7)	73 (64.3)	51.4	92 (55.9)	106 (48.5)	31.7	82 (38.8)	94 (33.9)	34.0	97 (34.9)	102 (33.4)
納豆小粒	7.9	97 (8.2)	96 (8.2)	47.5	80 (59.2)	76 (62.9)	164.6	94 (175.5)	104 (158.0)	28.5	88 (32.4)	97 (29.4)	8.8	86 (10.2)	90 (9.8)

試験場所は水戸市農業研究所内畑圃場 (表層腐植質黒ボク土)。

( )内は前年または平年値。平年値は平成17年～21年 (5ヵ年分) のデータの平均値。

茎の太さは第1節 (子葉節) と第2節 (初生葉節) の節間で測定。

平年差の△は平年より早いことを示す。

耕種概要: 6月21日播種、11.1株/㎡ (畦間60cm×15cm) 1本立て、施肥量: N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O : 0.3-1.0-1.0kg/a